

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を意識するよう、事務所に提示している。	理事長講話が年一回あり、理事長の事業所訪問も受け、年度の事業計画や理念等の話を聞く中で職員は法人の指針を明確に理解することができている。利用者本人や家族には利用開始時に在宅の延長線としてホームがあり、スムーズな暮らしに移行できるようにサービス提供することを説明している。職員はホームとしての指針でもある「家庭的な環境の中で、認知症利用者が共に生活をする場です」という法人の理念を良く理解し職務に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域住民と関わりを持てるよう、日々のウォーキング、買い物、清掃活動において、挨拶を意識している。	母体ともいえる介護老人保健施設ほかの複合施設で自治会費を納めており、その複合施設で秋に開催し地域の方も大勢観覧に訪れる「文化祭」には絞り染めコースターや折紙の鶴の作品をホームとして出品している。地域清掃活動としてホーム近くの鎌倉街道のゴミ拾いをしたり、窓から景色を見ていた利用者の「神社の落ち葉が汚い」の一言で隣の神社の落ち葉掃きや草取りなどにも取り組んでいる。また、内容の濃いボランティア活動を積極的に受け入れており、その中のアニマルセラピーとして年一回、小型犬と触れ合いながら一緒に散歩にも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度予防事業の中で、認知症の予防の講義、実践的な活動を実施していたが、今年度は、実施なし。今後、運営推進会議にて議題として挙げできる活動を実施していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催している。今年度は3回の実績。日々の利用者様の様子、事業所で取り組んでいる認知症予防活動について報告、意見交換を実施している。	会議は利用者家族、地域住民代表、区長、副区長、広域連合職員、町役場職員、介護相談員などが参加し定期的に開催しており、双方向での意見交換ができている。全国的に様々な自然災害や人的な事件が起こる中でこの冬の会議では防災訓練、とりわけ土砂災害時の訓練について意見の交換ができたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、市役所の介護保険課の方に、入退居者の有無や利用者様の状態、ケアの取り組みなど伝えている。	ホームからの報告書などの提出や基本資料について相談がある場合には直接町役場に出向いている。介護認定の更新手続きについてもホームで行っている。介護相談員が月1回、2名で訪問し利用者とは話し、何かあれば報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須研修として、施設全体で勉強会を実施。必要によって、事業所内で意見交換を図っていく。	玄関の施錠はしていない。安全を確保するため、出入り時にチャイムの音が鳴る仕組みで対応し、ホーム建物を取り囲むように人感センサーも取り付けられている。離脱傾向の強い利用者には職員が話し掛けたり、気分転換のため好きなことをしていただくなど、職員は様々な工夫を対応している。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必須研修として、施設全体で勉強会を実施。必要によって、事業所内で意見交換を図っていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、勉強会の実績なし。資料等を配布し、理解を深めていく。必要であれば、会議にて検討する機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約、解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつぶやきとして、小さな事でも、汲み取り、日々職員間で検討、対応をしている。	ほとんどの利用者は、自身の要望等を表出できる。思うように伝えることができない利用者には、生活歴や日々の一言を記した「つぶやき良かった探し」の記録簿を参照し、表情や仕草の意味などを総合判断し、その場の状況を踏まえたうえで、利用者の意に沿えるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日15時からの申し送り、ケアカンファレンスの場面で意見を反映させている。	職員会議を開くこともあるが、毎日15:00からの話し合いの中で、細部にわたり打ち合わせや検討を重ね、職員の意見を集約しホーム運営に活かしている。話し合いに出席できなかった職員には「連絡ノート」で確認のサインをし、情報の共有を確実にしている。職員はチャレンジシートを使い目標を定め上司との面談も踏まえ、スキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って働けるように、各ツールを用いている。必要によって、面接の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や、習熟度に合わせて、研修設定しており、年度に始めに、各自でスキル向上のため参加研修を決定、定期開催している研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体の研修の中で、交流の機会としている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面接を実施し、現状の不安等を調査し、入居後も他者との関係構築の援助をしている。入居後の希望、不安も傾聴し、随時対策をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を確認しながら、他サービス機関の情報も必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするために、家事、掃除を一緒に行う。食卓にて同じ料理を味わい、会話の機会を多く持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食の機会、面会時の環境の配慮、楽しい時間を過ごして頂けるように配慮している。日々の様子を互いに把握する事に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣店舗への買い物や、住み慣れた地域への外出等を計画し、実施している。	ホームとして目指す「質の高いアクティビティ(活動・活気)」に沿い利用者一人ひとりの状況にあった支援内容を考え試みている。球技が得意な利用者に関して卓球ができるのではと推測し進め、気持ちに不安定要素が現れた時に職員が手合わせをし気持ちの落ち着きを取り戻したり、また、縫物の得意な方には雑巾作りなどを提案したりと、馴染みの作業などで工夫を重ねている。毎日の買い物で知人に偶然出会い、楽しげに挨拶を交わす場面もあり、多様な支援を試みている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が互いに話しを多くされている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居後も必要に応じて相談援助、面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや、つづやきを希望として、つづやきとして、汲み取れるように努力し、希望を個別外出として、計画立案、ご家族様と協力し、実施できるよう努めている。	自身の思いを伝えることができる利用者がほとんどであるが、一人ひとりの思いに合わせた個別ケアを大切に支援に努めている。同性での介助を希望される利用者については、希望に何時でも沿うことができる。職員は利用者の様子に何か違和感を感じた時や居室に戻られ一人になった時などを見計らいさりげなく話しかけ寄り添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に作成しているフェイスシートを活用しながら、過去の生活、現在の生活スタイルに沿うように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスや、日々の記録を元にアセスメントをしている。知りえた情報を職員間で共有している。年1回家族カンファレンスを実施しご家族からも情報収集に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族様の希望を取り入れた介護計画を作成している。必要時利用者様の状態変化に応じて計画を見直す年1回家族カンファレンスを実施している。	「カンファレンス予定・実施チェック表」を使いケアプランと照らし合わせ、進捗状況を十分把握し実情に即応できるようにしている。状態に変化の見られない場合は半年に1回、変化が見られた場合は随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力(ポイントケア)にて情報共有を図っている。毎日ポイントケアの実施有無について評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人施設が近隣にあり、交流を図る機会がある。年3回行事へ参加している。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員として、地区の行事に参加し地域住民との交流を図り、地域の一員として生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	岡谷市訪問看護ステーションと連携を図っている。	利用前のかかりつけ医を継続されている利用者がほとんどで、定期受診については家族等の対応で行っている。利用者の中には医師の往診を受けている利用者もあり、様々な対応を取っている。訪問看護師が週1回2名来訪しており、健康面でも安心な体制が整えられている。また、看護師との24時間のオンコール体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の往診時に相談と、体調の変化時には、電話連絡にて指示事項を確認、対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者との連絡を取り合い、ご本人の状態把握と、今後の方針・予定等を聞き、必要に応じた相談援助ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態や、ADLに変化が見られた際には、ご家族様と今後の方針を話し合い、棟事業所のできる範囲のことを説明している。又主治医や、ケアマネ等にも相談し、多方面から支援できるように取り組んでいる。	ホーム利用前に「グループホームグレイスフル下諏訪施設紹介」として、パンフレットにて具体的にわかりやすく、複合施設と連携できることを説明している。重度化した時点で、より専門的な視点から法人関連施設で手厚い介護ができることを紹介し、家族等に理解をいただけるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による定期的な救命救急法を受講している。又日々の申し送りにてその都度対応について確認をとる。今年度2月に予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を計画し、利用者様、職員で実行している。又、災害時の近隣住民による協力体制も整えている。	年2回、避難訓練を実施している。昨年9月に下諏訪町に大雨警報が発令され、避難勧告はなかったが、ホームの並びにある同じ法人の特別養護老人ホームの2階食堂に全員が避難した。遅番職員と夜勤者2名、法人の他施設からの応援者2名で移動の支援をし、一晩食堂で過ごしたという。翌朝まで何事もなく済み、また、事故もなく終わることができ、日頃の避難訓練と情報収集の大切さを改めて認識できた。職員の意識も高く、非常時の備蓄も万全である。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人内の事業訪問で、情報を共有しながら、言葉かけや、対応を検討、実施している。	利用者の居室に入室する時には、ドアを3回ノックするという決まりを作っている。返事がない場合もあり、気づかいをしながら開けるようにしている。職員は利用者の尊厳について研修等で理解を深めており、接し方や話し方にも丁寧に対応していることが感じられた。また、職員は法人のマネージャーから話し方などの指導を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の希望や思いを聞いた際には、つぶやきとして取り上げ、職員間で情報共有し、個別外出や行事の中に取り入れ、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、好みを大切にし、ご希望を伺い、買い物やウォーキング等を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の自己決定に配慮している。以前からの生活の継続から美容室に通っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から、調理、盛り付け、片付けまでの流れを利用者様と共同して実施している。	食事は若干名の方が一部介助を必要とするが、自力で食べることができる方がほとんどである。法人の統一献立表があり、それを基本に当番職員と利用者で作っている。食材については毎日利用者と職員が買い物に出かけ食品選びをしているため新鮮な食材が確保され、利用者の苦手な食材を別の物に変えたり臨機応変に応じることができている。台所には利用者家族からいただいたネギの入った袋が置かれており家庭的な雰囲気を感じさせた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	統一献立を立案し、食事提供している。献立の中に利用者様希望品を昼、夕に盛り込み、希望に添える対応をしている。食事、水分摂取量についてポイントケアで把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に応じた口腔ケアを実施している。夜間義歯を預かり定期的に義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれる方が9名いる。その中で、排泄パターンを把握し、必要な場面で支援をしている。	屋間は布パンツで過ごされる方が多く、夜間のみリハビリパンツを使う利用者もいる。介護用品の費用軽減について法人全体での取り組みがあり、職員は利用者の排泄パターンの把握は勿論、日々の体調への気づかいにより実践的な支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の活動、食事摂取、水分摂取量を把握している。運動面では、1日30分を目標に活動している。現在1日の水分摂取量1500ml平均で便秘の予防となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午後の時間に入浴を楽しんで頂いている。毎日希望される方等の希望に添えるよう支援に努めている。	地域の環境を活かして温泉を引いてあり、ホームの誇る特色の一つになっている。温泉の効能は数値化できないが、気持ちの良い毎日を過ごしている。ほとんどの方が自立で入浴できるが、頭や背中手の届きにくいところは職員が手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休んで頂けるよう、環境を整えている。又状況に応じて休息して頂くよう声かけ、誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後や定期的に変更があった際等、全職員が把握できるように申し送りノート等に記載し確認している。服薬マニュアルを元に適切な対応を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートの活用、利用者様からの聞き取りにて、希望や楽しみ等を把握し、対応できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候によるが、雨天以外毎日外にでれる機会を作っている。つぶやきから外出先を決定できるように努めている。	可能な限りの外出支援を心掛けている。順番で買い物に出掛けたり、「今日は天気がいいから、花がきれいに咲いたから」など、様々な情報に合わせ気軽に出かけている。ホーム前の津島神社のお祭りには夕方から出かけ、法人職員が担当する屋台に立ち寄り、楽しい時間を過ごし地域住民との交流も重ねている。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様の希望を聞き取り、本人が買い物ができるように支援する仕組みができています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や、本人、御家族様が希望した際に電話連絡できるように支援している。入居時に説明をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の動線を把握し、安全な環境に配慮している。落ち着ける環境、活動できる環境設定をしている。	玄関をに入ると見通しの良い大きな透明ガラスの引き戸があり、居間兼食堂が見え開放的な造りになっている。回廊型で一周できる廊下に面した中庭が明るい。西側の窓からは同じ法人の複合施設が見え、四季の移ろいを暮らしの中で感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の動線を把握し、安全な環境に配慮している。落ち着ける環境、活動できる環境設定をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、一人の時間、他利用者様と話しができるなど、本人様同士了解の元で互いに良好な関係を保てるような環境に配慮している。	居室には大きな可動式の収納戸棚が設置され、エアコンと空気清浄機が各居室ごとに備え付けられている。自宅で使い慣れたテーブルやテレビ、家族が持ち込んだ加湿器などが置かれ居室もあり、落ち着いた暮らしをしていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時、使い慣れた家具、衣類を継続して利用できるように支援している。生活の中での思い出等を写真で掲示している。		